

科目名(Subject)	財務会計論 I (Financial Accounting I)		
単位数(Credits)	2 単位	開講時期	前期
担当教員名 (Name)	坂柳 明 (Akira SAKAYANAGI)	研究室番号 (Office)	423
Office Hours	金曜 10:30~12:00		
1. 授業目的・方法(Course objective and method)			
<p>授業目的：この授業では、意味のある財務会計分野の研究論文を執筆するに当たって、研究上の論点を見つけることを目的とする。その研究上の論点として、この授業では、以下の3. 授業内容(Course contents)で示すような、財務会計分野の研究を行うに当たっては必須の論点を紹介する。</p> <p>授業の方法：この授業は、使用する文献の内容について参加者に問題提起を行ってもらい、その問題提起に担当教員がコメントする、という方法で行われる。</p>			
2. 達成目標(Course Goals)			
<p>この授業を履修することによって、多学問の知見を借りなくても、財務会計分野の研究を行うに当たっての核になり得るところの、①:会計基準及び関連実務指針に従う形で行われている、あるいは現時点では気付かれていない可能性がある、「資産の当初の取得原価の決定や、資産の事後的な帳簿価額の決定が、資産の市場による評価額の決定と比べて、その資産を購入する契約を結ぶ相手方と自身がどのような関係にあるか、あるいは、その資産を購入する契約の内容はどのようなものか」という点を考慮した上で、どのような原理で行われているか、を探る研究上の手がかりが得られる。</p> <p>また、②:会計基準及び関連実務指針に従う形で行われている、あるいは現時点では気付かれていない可能性がある、「収益の認識規準が、伝統的な実現基準と比べて、契約を結ぶ相手方と自身がどのような関係にあるか、あるいはその契約の内容はどのようなものか」という点を考慮した上で、どのように見直され得るか、を探る研究上の手がかりが得られる。</p>			
3. 授業内容(Course contents)			
第1回～第4回：棚卸資産の取得に関わる「付随費用」の原価性：			
<p>費用収益対の原則を論拠にすることの合理性を考える（第1回～第2回の事前学修と事後学修の課題とします）。その上で、その棚卸資産の当初の取得原価の決定、あるいは、その棚卸資産の事後的な帳簿価額の決定が、その棚卸資産を購入する契約を結ぶ相手方と自身の関係と、その資産を購入する契約の内容とどう関係するかを考察する（第3回～第4回の事前学修と事後学修の課題とします）。</p>			
第5回～第7回：有形固定資産の簿価に加算されることになる、とされる支出（いわゆる資本的支出）の原価性：			
<p>ある支出が有形固定資産の維持・修繕を目的とした支出かどうか、その支出の金額をその有形固定資産の帳簿価額に加算する根拠になり得るか、を考える（第5回～第6回の事前学修と事後学修の課題とします）。その上で、その有形固定資産の当初の取得原価の決定、あるいは、その棚卸資産の事後的な帳簿価額の決定が、その棚卸資産を購入する契約を結ぶ相手方と自身の関係と、その資産を購入する契約の内容とどう関係するかを考察する（第7回の事前学修と事後学修の課題とします）。</p>			
第8回～第11回：有形固定資産の交換に関わる収益認識：			

ある有形固定資産と、別の有形固定資産を交換する場合に、よく知られている「同種資産同士の交換か、異種同士の交換かが、認識される収益の有無」を決定する旨の議論の合理性を考える（第8回～第9回の事前学修と事後学修の課題とします）。その上で、有形固定資産の交換についての先行研究において、見落とされてきた可能性がある点—特にその有形固定資産を交換する契約を結ぶ相手方と自身の関係と、その有形固定資産を交換する契約の内容を考察する（第10回～第11回の事前学修と事後学修の課題とします）。

第12回～第15回：委託販売に関わる収益認識：

ある会社（A社）が、別の会社（B社）に棚卸資産の販売を委託する場合に、先行研究においては、販売委託契約を結ぶ当事者であるA社とB社の関係について、どのような議論がなされていたか、を整理する（第12回～第13回の事前学修と事後学修の課題とします）。その上で、委託販売についての先行研究において、見落とされてきた可能性がある点—特に販売委託契約を結ぶ相手方と自身の関係と、その販売委託契約の内容を考察する（第14回～第15回の事前学修と事後学修の課題とします）。

4. 事前学修・事後学修(Preparation and review)

3. 授業内容(Course contents)を参照。

5. 使用教材(Teaching materials)

第1回～第5回、第6回～第10回、第11回～第15回ごとに、それぞれ内外の文献を使用する。これらの文献は、授業前に予め読んできてもらい、授業当日は、担当教員による補足説明の後、参加者から提起された問題について議論する。

6. 成績評価の方法(Grading)

出席率：10%

授業への参加度（討論、事前課題・事後課題の提出）：85%

未知の研究上の論点の発掘：5%

7. 成績評価の基準(Grading Criteria)

秀（100～90）：授業内容をほぼ完璧に理解し、研究能力があると認められる。

優（89～80）：授業内容は十分に理解しているが、研究論文がある、と言える水準に達するためには、もう少し努力が必要である。

良（79～70）：理解が不十分な点はあるが、授業内容をおおよそ理解している。

可（69～60）：理解が不十分な点は目立つが、授業内容の基本的な理解はある。

不可（59～0）：授業内容を理解している、と言える水準に達していない。

8. 履修上の注意事項(Remarks)

この授業を履修するに当たっては、分析力、洞察力といった、「考える力」が求められます。